

特別寄稿

男の魅力女の魅力

東京都立大学助教授

江原由美子

今からもう十数年も前のこと。女友達と、「素敵な男の人」についておしゃべりをしてた。それぞれ結婚しても仕事を続けたいという希望を持っていたので、どうしても話は家事育児に協力してくれる素敵な男の人はいないかという話になってしまふ。「そんな男の人なんてそうはいないわよね」と溜息まじりに互いにうなづきぐちをこぼしていると、そんな私たちを叱るように、ある友人がこんなことを言い出した。「でもさ、結局さ、それって私たちのせいでもあるんじゃない？ 私たちさ、口ではさ、家事育児に協力してくれ

る男の人が良いなんていつてるけど、本当のところでは恋人や夫には仕事ができる強い男がいつて思っているんじゃない？ 万年ヒラ社員のうちだつてあがらない男よりも、仕事ができてる出世して見栄えも良い男のほうを、どうしても好きになってしまふってことない？ もし結婚して夫に家事育児をちゃんと半分分担してもらったとしてね、それで自分の夫が他の同期入社男性よりも出世が遅くなったとしたら、そんな夫の姿を見て、子どものおしめをとりかえている夫の背中を見て、私たち自身じめに感じてしまふところない？

私、自分自身にそういうところあるのを良く知っている。だから、男の人を責められない。結局ね、どっちもどっちだと思うのよ。家事育児に協力して欲しいなんて言っても、夫には他の男と比較してもけつして恥ずかしくない仕事をして欲しい、他の男よりも仕事ができる堂々とした男でいて欲しいなんて思っている。私自身すごく「男らしさ」に囚われている。それなのに良い男がいらないなんて文句ばかり言うの、間違っていると思うわ。」

親しい女友達だけの楽しいおしゃべりである。その後は大混戦になってしまった。「私はそんなこと感じないよ。みじめなんて全然感じない。おかしいのあんただけだよ。」「私は彼女の言うこと良く分かるわ。やっぱり男の人見る時ね、仕事ができるとか能力とか、そういうところで魅力を感じてしまっている。それが第一になつてしまっているの。自分で良く分かる。」「賛成反対入り乱れてわいわいがやがやの議論をしたものである。十数年前「若い女性」であつた私たちにとって、言葉の上では「性別役割分業」を批判できても感情の面では難しかったのだなと思ふ。「素敵な男の人」「格好良い男の

人」「魅力ある男の人」というイメージと、家事・育児をちゃんとやり、エプロンをかけ洗濯をする男の人が、なかなか一致しなかったのだ。頭では分かっている、いざ好きになる男の人と言えば、結局旧来の「男らしさ」イメージで「格好良い人」になつてしまつてたのだ。私たちを叱つた友人は、その私たちの痛いところを見事についてきたのである。

それから、長い時間が過ぎた。私の人生にも、人並に様々な出来事が訪れた。けれど、あれからどれだけ人を見る眼、人の魅力を感じとる力をつけることができたか、旧来の男らしさ女らしさに囚わされることなく男性女性の魅力を感じとる力を得ることができたかと、あらためて自分に問うてみると、自信はない。結局、それほどにも感情や感じ方を変えるのは難しいということなのだろう。人の魅力を感じとることができるといふことも、人格的な成長がいるということなのだろう。

けれどそんな私でも、ほれぼれしてしまふような魅力的な男性、女性に遭ふことがある。にこやかな笑みを浮かべながら、子育てと仕事の両立の難しさを語るM氏。静かなおちつきなのにも、体験



の重みと信念がほの見える。仕事だけの男の人に良く見られる不安げな空元気とは無縁。仕事と家庭を両方背負うつらさを知っているから、他人にも寛容。けれども、自分の信念で生きようと思えば生きたるものも知っているから、何でも環境や条件のせいにして逃げてしまふ人間には怖い人である。その優しさと厳しさの共存がたまたまなく魅力的。落ちついたものごしで、「私は、私たち専業主婦は、今まだ可能性のある若い働く女性たちのために、何かするべきだって思う。自分が専業主婦だったからと言って、働く女性を敵視

するのは、間違いだと思う。私は、自分の人生の残りを、次の世代の女性男性が私たちよりもより自由に生きられるような社会態勢をつくるために使いたい。」と語るHさん。自分の選択には後悔していない、でも自分に本当に選択の条件があったかと考えると疑問を感じるといふ。自信に裏付けられた率直さと、若い世代の男女の未来を案じる広い視野、静かな口調の中にうかがえる熟考。先輩女性の有難さを身にしみて感じさせてくれる方である。どちらの方にも共通して言えるのは、外見的な社会的地位ではなく個人として生きてい

ること。男性間の競争に勝つことより、生活に個人として責任を負うことを重視しているM氏。組織の中で出世が男性の評価基準になってしまっている今、それはどんなに困難なことだろう。けれどもそんな世間の目にとらわれず、個人としてきちんと生きている彼こそ、本当の勇氣を持っている男性なのではなからうか。専業主婦という社会的立場ではなく、自分の思想のほうを、自らの存在根拠に据えておられるHさん。だからこそ他人への優しい目を持っているのである。そんな彼女こそ、本当に自分を尊重し、自信を持って生きていると言えらるのではなからうか。

今、「自立して生きる」若い女性たちが増えている。けれど、時として彼女たちの発言の中にかつての私たちのようなうすっぺらさを感じてしまう。「洋服はやばで太ってみすばらしくて、ああいう女にだけは間違ってもなりたくない」といった発言。『やはり恋人には仕事ができる男じゃなくちゃ』といった昔ながらの「男らしさ」基準でしか男性を評価しない発言。そういう外見の評価しできないことが、自分を魅力のない人間にしていることに、気付いて欲しいと思う。

プロフィール

1952年神奈川県生まれ。

1975年東京大学文学部卒業

1979年東京大学大学院博士課程中退

同年、東京都立大学助手

1982年お茶の水女子大学専任講師

1986年同助教授

1992年10月より東京都立大学人文学部助教授

主な著書

『女性解放という思想』（勁草書房）

『フェミニズムと権力作用』（同上）

『ジェンダーの社会学』（共著）（新曜社）など

子育ては楽しい

やっぱり少ないんじゃない？
そうかあ。一人半なんですか。と
いうことは、三人娘の母である私
は二倍頑張ったということですね。
子育ては、いろいろ苦労がある
けれど、楽しいですよ。

(30代 小学校教諭)

産まないのは損

子供を育てるというより、自分
が成長させてもらっているという
気がする。子供を産まないのは損
だと思う。

(30代 主婦)

自分たち夫婦が優先の時代

夫婦お互いが楽しむ時代になっ
てきて、子供のためにというより、
まず、自分たちのことを考えてい
るのではないかしら。

(40代 主婦)

少ない…

少ないわね…。やっぱり、三人
はいた方がいいと思う。

(40代 主婦)

人類のために必要

子孫繁栄、人類のために当然子
供は必要。産める人は産むべきで
ある。

(50代 会社員)

地球規模で考えるならば…

世界的視野に立ち、地球の人口
増加の現状からすればうなずける
が、日本人の立場としたら、年齢
構成が逆ピラミッドなため、日本
という国を支えていけるだろうか
と危惧している。

(70代 団体役員)

同居して産む

これだけ女の人が働く時代、共
働きの夫婦が子供をたくさん産む
のは無理です。だから、うちは同
居です。

(30代 会社員)

子供に無関心、無責任

パチンコを夫婦でしていて、車
の中の幼児を死なすような現実。
つまり親に責任感がないのでは…。

(40代 会社員)



社会の風潮

最近の若い人は、若いころ遊び
すぎるから、子供を産むころには
気力がなくなってしまうのでは…。
それに、子育てにお金がかかりす
ぎるのも問題だと思う。児童手当
などをもっと充実してほしい。

(60代 主婦)



出生率1.53人をどう思いますか？

平成3年の合計特殊出生率（1人の女性が生涯に出産する子供の平均数）は
1.53人。過去最低だった前年の1.54人を更に下回る背景には、女性の晩婚化
や未婚率の上昇などが考えられます。この数字、皆さんは？

産んで良かった！

結婚すれば当然産むべき。三人
娘のうちの誰かが老後はみてくれ
るだろう。いろんなことを考える
と子供の将来は多難だろうが、や
はり産んで良かったと信じている。

(30代 パート)

寂しいなあ…

夫婦二人に子供一・五三人では
元がとれないなあ。人口が減少し
ていくことに寂しさを感じます。

(50代 主婦)

産める社会になってほしい

少しは改善されてきているかも
しれないが、仕事をしながら子
育てをする社会環境が整っていない
点や、今の生活を楽しまたいと
考える点から一・五三はうなずけ
る。子供との時間を持ちながら、
自分も磨けるような社会になっ
てほしい。

(20代 会社員)

何故、産まないの？

子供が授からない私から見れば
子育てをしない方が、おかしいと
思うの。子供から手が離れた後で
仕事につけば、いいじゃない。

(50代 主婦)

家の中はにぎやかな方が

生活のためや自分が働きたいか
ら、いろいろな人いるが、
家の中がにぎやかな方がよいと思
うので、寂しい数字。職業を持っ
ている女性は、家庭が相当犠牲に
なっていると思う。

(60代 自営業主婦)



遺伝子学的には…

遺伝子学的には出生率低下はあ
り得ない。「そんなバカな！
遺伝子と神について」竹内久美子
著より。一・五三は社会に産め
ない原因があると思う。いずれは
上昇すると思っているから悲観は
していない。

(30代 会社員)



ぐる〜ぷねっと

〜みんなの輪〜

いろんなまちで
いろんなグループが
頑張っています。
あなたも一緒に
参加してみませんか！



音楽の輪を広げよう 〈親子で名曲を楽しむ会〉

昭和六十三年に始まったこの会は、若いお母さんや子供たちに名曲を生で聴いてもらい、クラシックの底辺を広げることを目的に発足しました。

会員は、音楽大学を卒業し、ピアノ・声楽・フルートなどの講師として活躍している二十六人（女性二十五人）のメンバーで、全員が富士クラシック協会にも所属している実力派です。

活動は、市内の各公民館でのミ

ニコンサートと、年一回の文化センターでの大コンサートです。

演奏曲は、二、三分ほどのやさしい、親しみやすいものを中心に選んでいます。また、演奏前に、鑑賞マナーの説明をするなど、女性中心のグループらしい配慮が見られます。今では、子供たちに次の開催をせがまれるほど好評で、会員たちの演奏する手にも自然と力が入ります。

お母さんと子供たちにと始めたこの会も、三歳の子供からお年寄りまでとファン層も広がり、会員は練習の成果を発表する場ができ、その上みなさんにも喜んでもらえるという相乗効果は、予想以上だと驚いています。

九月六日の大コンサートでは、音楽鑑賞だけでなく、第二部にバレエの発表会をジョイントし、小さなプリマも喝采を浴びました。感性豊かな子供のころから、クラシックに親しむことは、将来のクラシック人口の増加につながります。

この音楽の配達人たちは、音楽の輪を広げて、富士市を文化都市にと、日夜頑張っています。

連絡先 富士市水戸島一五二五
電話 〇五四五(4)四四八八
代表者 高塚 春子

地球を、自然を守りたい

〈よめなの会〉

十年前、生活の無駄を考えるために、若いお母さんたちが集まって発足した大井川町唯一の消費者グループです。『よめな』とは野菊の出たばかりの若芽のことで、「生まれたばかりの会」ということで名づけたそうです。当初は、ゴミ問題などについての勉強会を月一程度開いていましたが、周囲にはなかなか理解してもらえなかったそうです。

ところが昨今、環境問題に関心

が高まるなか、今まで実践できなかった牛乳パックの回収が、三年前にあつという間に実現しました。今年五月に始めたトレイの回収については、さらに順調に軌道に乗っています。会員が十年前から言い続けてきたことが、活動を続けてきたことによって、時代の流れとともにようやく認められたのです。現在、環境問題はそれほど切迫したものになっているのです。

「私の活動で、子供も環境問題に関心を持ってくれた。」

「一人では何もできないが、仲間がいれば何かできることがすばらしい。」など、会員はそれぞれにやりがいを見いだし、生き生きしています。

「環境問題なら『よめな』に聞けばわかる。」という定評で自信を得た会では、さらに農薬や洗剤についても勉強していきたいと大変意欲的ですが、今後も気負わず地道に活動を続けていきたいと、あくまでもさわやかな印象を受けました。今、会員は十四人ですが、入会希望者がでているそうで、今後人数が増えることによって、ますますの活躍が期待されます。

連絡先 大井川町上新田二八九―
電話 〇五四(02)五七四〇

代表者 松原 利子

親子で、夫婦で、 みんなで楽しむ 〈佐藤バドミントンクラブ〉

今から十四年前、当時、学区でのスポーツは、男性はソフトボール、女性はバレーボールが盛んでしたが、上手な人以外は、試合になかなか参加できませんでした。そんなベンチ組の人たちが、自分たちも楽しめるようにと、年齢や性別を問わないバドミントンを始めたのがきっかけでした。ちょうど小学校の体育館が新築されたときで、場所も確保され、愛好者の輪はどんどん広がっていました。

現在、会員数は四十人。男女の構成比は三対七です。年齢は、二十二歳から六十七歳と幅広く、また、職業も、自営業、銀行員、公務員、主婦と様々です。

活動は、週一回、仕事を終えた夜七時から九時までで、練習試合を中心に行っています。長い活動の間に、親子が五組、夫婦が三組と増え、いかにも家族的なほのほのとした温かさを感じさせます。

本来、バドミントンはハードなスポーツなのですが、上達するためではなく、楽しくゲームすることにより、ストレスが解消できるのだそうで、そのせいか、練習試合の間も、あちこちで、なごやかな笑顔がこぼれています。対外試合はしませんが、年二回行われる大会では、全員が一段と張り切るのだそうです。

この活動を続けることにより、健康づくりが楽しくできるだけでなく、親子や夫婦のコミュニケーションも増え、また、老化防止にもなると、その効果は多く、会員の皆さんは、「今後またとえ何歳になっても、できるかぎり続けていきたい。」と大変意欲的です。

連絡先 浜松市佐藤町一三五

電話 〇五三(41)四三八五

代表者 磯部 日支三

